

【第4章】 重点プロジェクト

重点プロジェクトの位置付け

本市の将来像を実現するためには、長期的展望に立ち、市民が望む理想の具体化を目指して、限りある財源を効率的に執行していく必要があります。

このため、新しいまちづくりを先導する分野横断的な施策を「重点プロジェクト」として位置付け、戦略的な事業展開を図ります。

重点プロジェクトの特性

1. 基本構想・基本計画の計画期間を越えるものも含め、その長期的な推進方向と重点的に推進すべき施策の概要を提示するものです。
2. 本市の将来像の実現のために望ましいと考えられる取り組みは積極的に取り上げ、関係する庁内各部署の連携によって進めます。
3. 施設整備などのハード事業に限らず、公共サービスなどのソフト事業や社会システムの整備などにも主眼を置き、最小限の経費で最大限の効果を発揮するように努めます。
4. すでに着手しており、継続的に取り組む施策・事業から、将来を見据え、これから具体化が必要な施策・事業まで、熟度に差がありますが、環境変化や財政状況に対応して、柔軟に見直しを図りながら進めます。
5. 本市が事業主体になるものばかりでなく、国や県をはじめ市民、関係団体などの理解と協力のもと、市民と行政が一体となって推進していくことを期待するものです。

第1節 まちを担う“人財”育成プロジェクト～人づくり～

“人”はまちづくりの原点です。そして、まちづくりの基本理念においても記載しているとおり、明日の本市を担う“人づくり”は、本市の振興と発展にとって、最も重要で、欠くことのできない長期的な課題です。

社会における参画意識や助け合いによる連帯意識の低下、子どもたちを取り巻く問題、郷土愛の希薄化、そして産業分野における後継者育成など、さまざまな課題がある中で、活力や思いやりに満ちたまちづくりを進め、力強く本市を牽引していく“人財¹³”の育成に全市をあげて取り組みます。

基本方針『こうなりたい!』

市民一人ひとりや地域が、いきいきと活気にあふれ、まちへの思いや人への思いやりにあふれる“人財”が育つ気風に満ちたまち

目標と方向性『そのためにこうする!』

●目標1 互いを思い、尊重し合う「人」を育てる

安心・安全な環境、平等で信頼し合える関係で暮らせるまちを目指し、社会貢献、助け合いといった連帯・協力意識を向上させ、地域とそこに暮らすすべての市民が互いを思い、尊重し合う心をもった「人」となるよう、取り組みを推進します。

- ・地域ぐるみでの心豊かな人育て・教育の推進
- ・社会貢献・助け合いによる連帯社会の推進

●目標2 まちづくりに主体的に取り組む「人」を育てる

地域活動・社会活動への参加率の低下という課題を抱える中、市民一人ひとりがまちのこと、地域のことを積極的に考えるまちづくりの主人公たる「人」となるよう、参画・活用の推進を図ります。

- ・地域活動・社会活動への参画や地域の自主的な自治活動の推進
- ・まちづくりを担う地域のリーダーや市民活動団体の養成・支援
- ・市民活動に必要な拠点づくりと情報の受発信システムの創設

●目標3 まちを想い、まちを発展・進化させる「人」を育てる

明日の燕市を担う次世代には大きな期待が寄せられているため、地域への愛着と誇りを持ち、燕市を発展・進化させる力となる「人」の育成に取り組めます。

- ・青少年を中心とした基本的な能力の育成
- ・地域を学び、地域を誇る意識の醸成
- ・地域産業を支える技能や技術の継承と開発

¹³人財:「人材」をもとにした造語で、“人”は、まちにとっての“財産”であるという意味を込めてこの言葉を使用しています。

第2節 “ユニバーサル燕市”推進プロジェクト～新市一体化～

合併により新しく誕生した本市が、本当の意味で「ひとつのまち」として発展していくためには、地域の個性を尊重し、市民一人ひとりがお互いに認め合う気持ちを持ち、それぞれが主体的に本市のまちづくりに関わることができる環境をつくる必要があります。

そのため、地域間の交流を促進し、お互いの地域の特性を理解し、尊重し合える関係を構築するとともに、市民同士、市民と行政の信頼関係を培い、均衡ある発展と次世代のために夢のある市を創造することを目指します。

本プロジェクトでは、「すべての人の思いが共有される燕市」、「すべての人に公平で、分かりやすい燕市」、「世界に誇れる燕市」を目指すことを象徴して、“ユニバーサル¹⁴燕市”という言葉で表現しています。

基本方針『こうなりたい!』

各地域の特性や一人ひとりの市民の個性を尊重しつつ、燕市民としての一体感を持ち、まちづくりに関わるあらゆる人たちが心をつなげて築く“ユニバーサル燕市”

目標と方向性『そのためにこうする!』

●目標1 お互いをよく知り、尊重する

各地域の特性を理解し、同じ目線に立って尊重し合える関係をつくるため、交流の場や機会をつくり、市民交流を活性化します。

- ・互いの地域を知り、交流を図るイベントの開催
- ・各地域の行事や芸能の継承と他地域への情報発信の強化
- ・まちづくり協議会などの地域コミュニティ活動の活性化とネットワークづくり

●目標2 市民の交流を円滑にする

一体化を一層推進するための環境やしぐみを整えることにより、新しい市の基盤づくりを進めます。

- ・市内アクセス(移動の利便性)を向上させる幹線道路の整備促進と公共交通体系の改善
- ・市民間の情報交流の推進と市民向け情報発信の強化
- ・各種団体・組織の交流の促進と統合の検討

●目標3 市民と行政とのオープンな関係をつくる

市民が市政に参画しやすい環境をつくり、市民と職員相互の対話を促進し、合併効果を実感できるまちづくりを進めます。

- ・市政への市民や市民活動団体などの参画促進と協働によるまちづくりの推進
- ・公共施設などの適正配置の推進と行政サービスの抜本的な見直し
- ・市職員が一体となって取り組む職員意識の改革
- ・分庁舎方式による弊害の解消に向けた新庁舎の建設

¹⁴ユニバーサル [universal]:「全体の、万人共通の、普遍的な、全世界的な」などの意味があります。

第3節 “すこやか家族” 応援プロジェクト ～人口減少ストップ～

全国的に人口減少、少子高齢化が見込まれる中で、本市においてもその傾向は例外ではありません。人口はまちの活力に大きな影響を与える要素であり、本市が今後も活気のあるまちとして存続していくためには、子どもも大人も幸せな笑顔に満ちたまちを実現し、出生率の向上と定住人口の確保・増大につなげることが求められます。

そこで本プロジェクトでは、出産や子育てをしやすいまち、「訪れたい」「住みたい」「戻りたい」まち、「健康寿命」が延びるまちにすることにより、人口減少ストップにつなげることを目指します。

基本方針『こうなりたい!』

子どもの元気があふれ、市民の笑顔と活力に満ち、まちの将来に可能性を感じることができるまち

目標と方向性『そのためにこうする!』

●目標1 安心して子どもを産み、楽しみながら育てられる環境をつくる

少子化を抑制するため、出産や子育てをしやすい環境づくりを行うとともに、地域全体で子どもを見守り、育てるしくみを構築します。

- ・安心して出産・子育てができる保健・医療の充実
- ・育児と仕事を両立させるための環境整備の促進
- ・多様な需要に対応した保育サービスの拡充と親子の居場所づくり
- ・地域で子どもを見守る体制の整備
- ・結婚を望む男女への出会いの場の提供

●目標2 「訪れたい」「住みたい」「戻りたい」環境をつくる

定住人口を確保・増大するため、訪れる、住む、働くなどの基本的なニーズを満たすことができるよう、施策の充実を図ります。

- ・交流・定住に関する受入体制と情報収集・発信力の強化
- ・働く場所の確保（優良な企業誘致の促進）
- ・優良な住宅地の開発促進
- ・子育て世帯や若者の定着などに向けた住宅確保対策の促進

●目標3 みんなが健康になれる環境をつくる

市民一人ひとりが健康を心がけ、健やかに暮らすことができるよう、スポーツや食育などと連携した健康づくりを進めます。

- ・スポーツと保健事業の連携による健康づくりの充実
- ・生涯スポーツに親しむ機会の充実
- ・子どもから大人まで、食育による健康管理力の向上
- ・市民参加による健康づくり活動の推進

第4節 “燕らしさ” 創造プロジェクト ～燕の地域特性づくり～

産業の活性化や定住対策において重要なことは、産品などの購入や定住先の決定にあたって「選ばれる」ことです。そのためには、他の地域にはない燕独自の魅力をいかに差別化して創造するかが問われます。

本プロジェクトでは、地域固有のものづくりの技術や豊かな自然などを通じて、独自の魅力である“燕らしさ”を創り出すことを目指します。“燕らしさ”とは、現在の私たちの暮らしの根底に息づく、かつてのたび重なる水害や不況といった苦難を乗り越えてきた先人の気概や思想、生き方を尊重することから始まります。燕市民が長年培ってきた活動の結晶を地域内外に発信することにより、地域の知名度の向上を図るとともに、燕市民であることを誇りに感じることができ環境を醸成します。また、こうした活動を通じて、地場産品などの売り上げ向上や交流人口の増大などにつなげ、地域の活性化を図ります。

基本方針『こうなりたい!』

産業や技術力、歴史、自然など、地域の宝を“きらり”と光る誇りとして、燕の生活様式そのものが世界に輝く魅力になる

目標と方向性『そのためにこうする!』

●目標1 こだわりの“ものづくり力”を進化させる

伝統に裏打ちされた固有の技術力と先端加工技術の融合や各産業分野の連携などにより、燕が持つ英知を結集したのものづくりを進めます。

- ・既存技術と先端技術の融合による製品の研究・開発支援
- ・産・学・官の連携・協同による研究・開発の場の創設
- ・各分野を連携させるリーダー、コーディネーター(調整役)の育成
- ・ものづくりに関心を持つ人による研究・開発プロジェクトチームの設置

●目標2 特色ある地域性そのものを発信する

国上山や大河津分水の豊かな自然、良寛の生き方や長善館の思想をはじめとする多様な地域資源を活かし、特色ある本市の地域性や生活様式を積極的に情報発信します。

- ・工業や農業などのものづくり産業と自然観光資源を連携した産業観光の推進
- ・燕の魅力を市民レベルから発信し、まちづくりを支援していただく“燕ファン”や“燕サポーター”づくり
- ・地域食材から金属洋食器、金属ハウスウェアまでの総合的な生活様式の提案支援
- ・郷土料理や地域食材を活かした地産地消の推進
- ・全国レベルで活躍するスポーツ活動の振興などを通じた青少年の健全育成